

「無理なく、できることから、気楽に」始めるNIE

～いつでも、どこからでも、だれとでも、つながる新聞を楽しもう～

実践第1年次 上田市立長小学校 宮原 美恵

1 本校のNIEの現状

(1) 児童の実態

本校は、全校児童126名。家庭数96。各学年1クラスの小規模校である。3世代同居の家庭が多く、学校もひとつの大きな家族のようなまとまりがある。

ほとんどの家庭は、新聞を購読しているが、児童の新聞に対する興味・関心はあまり高くない。ニュースはインターネットやテレビで見るという家庭も少数ある。

(2) 教師グループの、NIEにかかわる取り組み

昨年度までは、NIEについてよく知らない教職員がほとんどであった。

しかし、授業では、高学年を中心に、道徳・社会科・国語科・総合的な学習などで、新聞を活用してきた実践が、いくつかあった。

本年度は、教育課程『図画工作科』の研究指定校であり、真田地域の学習指導研究大会「算数」の会場校でもあったので、「無理なく、できることから、気楽に」を合言葉に、NIEを実践しようと考えた。

2 NIE実践のねらい

- (1) 児童の言語力を向上させる。
- (2) 社会的事象に対する興味・関心を広げ、情報を取捨選択する力の基礎を養う。
- (3) 身近な地域の自然や生活の営みに対する情報を共有し、人と人とのつながりから成り立つ生活のあり方を考える力を伸ばす。
- (4) 教師集団の社会認識及び情報の共有化と、隣人コミュニケーション力の向上。
- (5) 複数の新聞を読むことにより、報道には様々な角度があることを、小学校ながらうすうす理解していく。

3 研究の概要

(1) 実践した教科・領域

○国語科 ○社会科 ○図工 ○道徳 ○総合的な学習 ○特別活動

(2) 新聞の提供状況

○新聞の置き場・・・5, 6年生の廊下 (「朝日小学生新聞」は図書館)

○置き方・整理法・・・長机に置き、広げられるようスペースにゆとりを持たせる。

(3) 新聞を取り入れた実践をする上で特に工夫したこと

①教師自身が新聞をより身近に感じ、実践してみたいくなる環境をつくる。

- ・ 教頭先生が発行する日報の裏面に、新聞記事の切抜きを載せていただく。
- ・ 見えそうな記事を、学年や教科担当の先生にコピーして渡す。

②様々な実践事例から、学年・学級の実態にあったものを参考にする。

・事例集を誰でも気軽に読めるよう配置する。

③低学年における実践を積極的に試みる。

・「朝日小学生新聞」を図書館で年間購読し、児童の興味・関心のある記事を、掲示板上に掲示する。

④児童会活動の、**新聞・掲示委員会の発案で、「新聞クイズコーナー」**を設け、昼の放送での新聞クイズと併せ、全校児童の興味・関心を高めた。

4 N I E実践の内容

(1) 国語科における実践

① 実施学年 2年1組 (男子14名 女子9名 計23名)

② 授業者 担任 宮原 美恵 教諭

③ <本学級で、今までに行った新聞を活用した学習や活動>

教科・活動	利用した内容	備考
朝の学級活動	○「ポケモンでおぼえよう！ことわざ辞典」による、ことわざの紹介（担任と子どもとの接点を模索して） ○「ポケモンのことわざ・熟語カルタ」で、あそぼう！ ○「これなあに？」新製品の開発の紹介	読売新聞
学級目標	○新聞から、子どもたちに親しみやすく分かりやすい掲示の工夫	朝日小学生新聞
国語	○単元「今週のニュース」における、話題提供と、掲示。 ○単元「見て、みて、何にみえるかな？」 * 2年生で学習した漢字を探してみよう！ ○単元「音やようすをあらわすことば」 * 新聞の4コマまんがから、さがしてみよう	家庭購読 各新聞 信濃毎日新聞 読売新聞
図工	○「つないで つないで」新聞で、造形遊び	産経新聞
学級懇談会	○「家庭学習のありかた」についての資料提供 「テレビ消し、読書タイム・早めに宿題の習慣」 11/6	信濃毎日新聞 他
道徳	○「きみがひかるとき」松井選手からのメッセージ ○「この人知ってる？」オバマ大統領の演説から ○3Rって、なんだろう。新聞から、何が出来る？	

④ < 〇2年1組の国語科の実態と、●学習においてみられる困難点 >

○ 新しく学習することに、期待感を持って、意欲的に取り組める。

○ 音読や詩の暗唱を好んで行なえる児童が多い。

○ 視覚的な手がかりがあると考えやすい児童が多い。

○ 学ぶ意欲、分かりたいと願う気持ちがどの児童にもある。

○ お話の読み聞かせやパネルシアターに集中して聞いたり、見たりする。

○ ことばをあつめたり、いろいろな言い方であらわしたり、なぞなぞやことば遊びが好きな児童が多い。

● 漢字の習得、片仮名の使い方に、個人差がみられる。

- 「サンゴの海の生き物たち」のような説明文では、かかわりあいや関係を表すことばをみつけたり、確かめたりすることに、抵抗があった。
- 結論を言うことができても、何故そう思ったのか、わけを説明したり、別な言い方で言い換えたりすることが難しい。
- 語尾まで、はっきり言い表すことが、習慣化できていない。
- 友だちや先生の話最後まで聞かずに、自分の思ったことや言いたいことを、そのまま表現してしまう。

⑤ 単元「見て、見て、何に見える？」「カタカナで書くことばをさがそう」の目標

- ア 新聞からえらんだ写真を、友だちにわかりやすく紹介したり、えらんだわけや感想を、簡単にまとめ、文章を書いたりすることが出来る。
- イ カタカナで書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことが出来る。
- ウ 友だちの話集中して聞くことができる。

⑥ 本時案

- ア 主眼：新聞の写真やニュースに、興味を持ち始めた子どもたちが、友だちが新聞からえらんだ写真を見て、どんな場面かを想像したり、説明やえらんだ理由を聞いたりすることを通して、「いつ・どこで・どんな場面（内容）か」などの大事なことを、相手にわかりやすく伝えることの大切さに気づき、自分が伝えたい内容を簡単にまとめて書くことができる。
- イ 本時の位置 4時間中第3時
- ウ 指導上の留意点

- ☆小学生新聞だけでなく、家庭で購読している新聞を扱うことから、読めない漢字や複雑な内容については、周りにいる大人に助けを求めるとにさせる。
- ☆友だちと交流しながら楽しく写真を探したり、情報交換したりできるよう、新聞を広げる場所やスペースをある程度自由とする。選ぶ題材も、自由とする。

⑦ 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・評価
導入	1. 友だちのえらんだ写真の内容を想像したり、えらんだわけを聞いたりする。	見て、見て、何に見えるかな？友だちの紹介する新聞の写真を見てみよう。なぜえらんだか、聞いてみよう。	
展開	2. 自分のえらんだ写真を、わかりやすく説明するための紹介文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな写真がえらばれているか興味深くみるだろう。 ・自分も関心を寄せたニュースであったりするだろう。 ・各自持ち寄り選んだ新聞から、自分の気に入った写真を選ぶだろう。 ・カラーで、内容の分かり 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな画面に拡大して、液晶テレビに見やすく写す。 ○「いつ・どこで・どんなこと」の紹介と、選んだ理由を聞く。 ○難しいことばや漢字は、質問して良いことを知らせる。 ○あまり難しい言葉や説明は省略し、楽しんで選んだ

終末	<p>3. 新聞から、カタカナを見つけよう。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>やすい写真を選ぶだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすくするための、言葉選びに戸惑うだろう。 ・漢字やひらがなの使い方に気をつけるだろう。 ・同じ写真に興味を示す子がいて交流するだろう。 ・自分の書いた文の誤りを見つけにくいだろう。 ・どんな言葉がカタカナで表記されているか、興味を持って見つけるだろう。 ・「音や鳴き声」「外国から来た言葉」など、同じ仲間を見つけて、分けることが出来るだろう。 ・難しい漢字があった。 ・さがすのが楽しかった。 	<p>り書いたり出来るよう声かけをする</p> <p>自分が伝えたい内容を、わかりやすく書こうとしていたか。</p> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書いた文は読み直しをして、誤記の訂正を呼びかける。 ○ゲーム感覚で取り組めるよう、グループ対抗で行う。 ○「音や鳴き声」「外国の言葉や人名・地名」「動植物」「その他」簡単に分類させる。 <p>どんな言葉が、カタカナで表記されているか、みつけられたか。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○迷っていた子、楽しい様子だった子に感想を聞く。
----	---	---	---

⑧ 児童の様子

- ア 前時に児童が選んだ新聞記事の写真を、大型テレビで拡大して示したことで、子どもたちの興味・関心が高まり、集中できた。視聴覚機材を効果的に生かした。
- イ 地域の話（大明神の滝・イチゴ狩り・氷祭り）や、自分の好きな動物（川上犬、マダラ）、不思議な事件（大型重機の盗難）などについての発表を聞き、友だちと発見したことや事件の面白さなどについて友だちと話し合ったりしたことで、本時の「写真を選んだ理由を、分かりやすく書く」という意識につながった。
- ウ 低学年には難しいと思われた一般紙も、写真を手がかりにすると、子どもたちに抵抗なくかかわることができた。低学年の子どもたちの興味を引く写真や記事が、紙面に多かった。
- エ 興味を持ったことについては、読めない漢字や難しいことばを周りの大人に聞きながら、自分なりに分かりやすく書こうとする子どもたちの姿が多かった。
- オ 前時よりも、子どもたちは、相手に伝えようとする意識が見られ、内容が分かりやすくなった。時間が予定より長くかかった。
- カ 2の学習活動に要する時間が長くなり、「カタカナをさがす学習」まで進まず、次時の課題となった。
- キ 普段、文章を書く学習にあまり積極的でない児童も、面白いと思った写真「飯山のかまくらサミット」を見つけ、記事から「かまくらの作り方」を読み取ると、楽しそうに紹介する文を書くことができた。内容も、前時より分かりやすくなった。

ク 家庭でも新聞を家族で広げたり話題にしたりする児童が、増えてきた。

(2) 「総合的な学習」における実践

- ① 実施学年 5年1組 (男子9名 女子16名)
- ② 授業者 担任 白鳥 勝教 教諭
- ③ 題材名 『新聞からぴかり輝く人を見つけよう』
- ④ 学習目標
 - ア 新聞を読む視野を広げ、より新聞に親しみを持つ。
 - イ 新聞記事の中から、自分の目的にあった情報を選択し、活用する力を育てる。
 - ウ 新聞記事の中から、「ぴかり輝いている」と感じた人を1人選び出し、友だちに紹介する活動を通して、人の生き方や考え方に興味・関心を持つとともに、美しく崇高なものを素晴らしいと感じる心を育てる。

単元の構想【全2時間】

時間	学習活動	支援・指導の重点	学習効果(つける力)
1 本時	①新聞を読み、「ぴかり輝いている」と思う人を見つける。 ②「ぴかり輝いている人」の紹介を書く。 ③記事を読んだ感想を書く。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ☆児童がその場で働かせている発想をとらえ、その良さを認め、広げていく。 </div> ○見出しや写真に着目して、自分の目的に合った記事を見つけることが出来るようにする。 ○世界・日本全国・各地方など広範囲で探すことが出来るようにする。 ○友だちの考えを「探す手がかり」として、黒板に掲示する。 ○どんなことに、興味や関心があるのか交流しながら、記事をさがすよう支援する。	○自分の目的に応じて、情報を選択し、活用する。 ○友だちの考えを生かして、自らの発想を広げていく。 ○人の生き方や考え方に興味・関心を持ち、その良さをとらえる。
2	①自分が選んだ「ぴかり輝いている人」を友だちに紹介する。 ②友だちの発表に対する感想を書く。		

⑤ 本時案

段階	学習活動	○支援・指導 ◎評価
導入 5	①「ぴかり輝く人」とは、	新聞からぴかり輝く人を見つけよう

分	どのような人なのか話し合う。	○これまでの学習を振り返り、ぴかり輝く人とは、どのような人なのか確認したり、話し合ったりする。 (実際に新聞を読みながら、どのような人なのか考えても良いことを伝える。)
展開 35分	②新聞記事から「ぴかり輝く人」を探し、紹介や選んだ理由を書く。	○見出しや写真に注目すると、探しやすい事を確認する。 ○「ぴかり輝く人とはどのような人なのか。」児童の発想をとらえ、認める。 ◎自分の目的に応じて情報を選択し、活用することが出来たか。 ◎人の生き方や考え方に興味・関心を持ち、その良さをとらえることが出来たか。
終末 5分	③新聞記事を読んだ感想を書く。	○次時に、自分の選んだ「ぴかり輝く人」友だちに紹介することを伝え、発表の仕方について説明する。

- ⑥ 準備品 □新聞（朝刊） □国語辞典 □漢字辞（字）典 □筆記用具
- ⑦ 資料（学習カード）

5 研究のまとめ

「無理なく、できることから、気楽に始めよう」を合言葉に取り組んだ1年だった。

実践指定校1年目として、あまり負担に感じることなく取り組めたので、学校全体でNIEを楽しむゆとりがあった。楽しくないことは続かない。NIEに取り組む自分たちが、「新聞をまるごと楽しもう」という意識で、1年間かかわることができたことが、一番の成果だった。

特に、NIE実践校として、複数の新聞を同時に読めることは、大きな喜びであり収穫だった。新聞に対する興味が、ますますわいてきた。新聞は、あらゆる分野に『新しく』『新鮮である』ことを実感しつつ、子どもたちとのコミュニケーションにも役立った。

高学年の子どもたちは、休み時間に廊下で新聞を広げながら、好きなスポーツの話題で盛り上がったり、今日のテレビ欄を見ながら楽しそうに交流したりする姿が定着した。そして、子どもたちのほうから、「新聞・掲示委員会で、『新聞クイズ』という企画をやってみたい」という提案があったのは、驚きであった。全校研究テーマである『他と主体的にかかわり、自らの学びを作り出す子どもの育成』で、目指してきた子どもの姿があった。

低学年の国語でも、新聞を使って、子どもたちが相手に伝わりやすい文章を書くことができるという実践を通して、NIEでは、「できることから、気楽にやってみよう」という姿勢が大切であることが分かった。そして、誰でもできそうだという手ごたえを感じた。

6 残された課題

① NIEと学校図書館との連携

情報発信地としての学校図書館で、どのようなNIEの活動ができるか、図書館司書の先生と国語科及び司書教諭との連携をとりながら、その可能性を広げたい。

② 中学年におけるNIEの実践

3,4年生に、新聞の楽しさを味わわせたい。どんなことが可能か、研究していきたい。